

第11回開催 知事と語ろう市町村ミーティング in よねざわ

【と き】平成22年11月12日（金） 14:00～16:00

【ところ】米沢市 伝国の杜 大会議室

【参加者】参加者総勢約120名



- 【1 県段階の認定農業者の組織について】
- 【2 米沢牛のPR、山形セレクション牛肉部門の基準について】
- 【3 米沢女子短期大学の4年制大学化について】
- 【4 文化事業への支援について】
- 【5 「にっこり知事室」(戸沢村殉難の碑)についての感想】
- 【6 子育てしやすい環境の整備について】
- 【7 どのような子どもに育ててほしいか】
- 【8 農業委員会での出会いの場の設定状況報告について】
- 【9 南原悪臭問題について】
- 【10 東北中央自動車道の追加IC（主要地方道米沢高畠線交差部）の早期完成について】
- 【11 認可外保育施設への助成について】
- 【12 母子福祉資金のPRについて】
- 【13 教員の適性検査実施について】
- 【14 ウコギの特性を活かした認知症等の予防薬開発による産業創出について】
- 【15 市民憲章全国大会への県内市町村の参加について】

【1 県段階の認定農業者の組織について】

☆農業者会の会長をさせていただいております。米沢の北部の上郷地区でフィリピンの農業研修生と一緒に農業をやって、水稻、大豆、枝豆、野菜などを作っております。

吉村知事には「つや姫」トップセールスで、いろいろ活躍されていること、一農家として感謝を申し上げます。

私も「つや姫」を作ったんですけども、今年、夏の高温で結構品質が悪い中、**99.5%**ぐらい一等米が出ているという話で、これは自分も作ってみて、コシヒカリに代わるような品種になるんじゃない

かというふうに、なんか自信を持っているところでありまして、ぜひ今までのように食味をちゃんとチェックした米作りなどを心掛けるようなことを継続していただいて、ぜひ日本のトップブランドになって、また、県会議員の方からも話があったのですが、世界戦略に向けた販売などをやってもらいたいという要望があったということでもありますけれども、ぜひ攻めの農業に使えるようなブランドに育て上げていただきたいなと思っております。

最近、戸別所得補償制度ということで、一応お金も入ったようなんですけども、今まで、民主党に代わる前は、認定農業者もしくは集落営農でないと政策支援が受けられないということで、我々認定農業者も、数多くの農家がそれに参加していたわけです。ところが戸別所得補償制度になってから、みんなが政策支援を受けられるということで、認定農業者自体の制度の意味がかなり薄れてきているような気がしております。

今年も米価下落もありまして、なかなか経済的にも厳しい中で認定農業者っていうのがどういふふうに、これは国の制度の問題もあるかと思っておりますけれども、そういった中で、東北6県の中で、認定農業者の協議会がないのが、山形県だけなんだそうです。制度自体の運営も含めて検討して、そこら辺はどういふふうに考えていらっしゃるのか、ぜひお聞かせいただきたいなと思っております。

(知事)

はい、どうもありがとうございます。

また「つや姫」も本当に応援をいただいたと思っております、皆さん、県内の方は本当に「つや姫」っていう名前をもうご存知だと思いますし、県民パワーが1番大事でございまして、私一人で騒いでもどうにもならないんですね。県民の皆さんお一人お一人が、「これはおいしい」っていうことを確認していただいて、口コミでいろんな県外のお知り合いの方に、宣伝していただくことで、本当に山形産のブランド米ができるんだというふうに思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

そして山形産のさくらんぼ、米沢牛とかですね、品質のいいものがあるんだというイメージを、私は作りたいんですね。だから単に米だけを宣伝してると思ひて、やっているわけではなく、山形を売っていく、宣伝する気持ちで「つや姫」を宣伝しております。「つや姫」一点突破で、とにかく宣伝して、山形は素晴らしいものを作っている。先人からずっとつないできている技術があつて、そして現代技術もそれに合わせて、それから、豊かな自然もあつて、三拍子そろつたところできた傑作が「つや姫」ですから、これを全国の皆さんに知つていただいて、作つていただいて、食べていただいて、日本的なブランドになつていってほしいなつていふふうに思ひております。そうすると山形で作つた米が日本を代表する米だつていふことになれば、山形そのものが底上げになつて思ひております、県産品全体のイメージアップにつながるんじゃないかと、私は思つてるところでございまして。

それで認定農業者について、どう考えているかというご質問でありますけれども、山形県では、平成22年3月末現在で、**8,657**名の皆さんが、認定農業者として活躍されておられます。認定農業者の組織につきましては、市町村段階の組織として、県内**33**の市町村で組織化されておまして、経営改善に向けた研修会や認定農業者同士が交流を図る意見交換会などが行われております。県

段階の組織としましては、全国で、おっしゃるように**20**の県で組織化されているんですけども、現在のところ、山形県には県全体の協議会というような組織はございません。県では、平成**12**年度から、山形県認定農業者交流会というのを開催して参りましたが、平成**18**年度からは、やまがた食産業クラスター協議会主催の「食と農の交流会」と統合しまして、認定農業者だけを対象とした交流会などは行われていない状況でございます。県としましては、今回のご意見を頂戴いたしましたので、他の関係団体からもいろいろこれからお聞きして、検討して参りたいなというふうに考えておりますので、よろしくお願いいたします。

(司会)

次の方、お願いします。

【2 米沢牛のPR、山形セレクション牛肉部門の基準について】

☆米沢牛を飼っている者です。

総称「山形牛」ということで、米沢牛、尾花沢牛、天童牛とか、さまざまあるわけで、米沢牛だけ、知事が宣伝**PR**するのは大変だと思いますが、「つや姫」同様に米沢牛も宣伝、**PR** お願いしたいと思います。あと一点だけお願いしたいのは、山形セレクションについてですが、今の規格の徹底です。どういった米沢牛に山形セレクションのハンコを押すかっていうのが徹底されてない面がございます。そういった面を、きちんとした下までおろしていただけるような方策をとっていただきたい。それから、山形セレクションの今後の展望についてもお願いしたいと思います。牛肉についてです。

(知事)

はい、どうもありがとうございます。

山形牛じゃなくて、米沢牛を飼ってらっしゃるということでございます。米沢牛、本当に有名になりまして、山形牛っていう全体で宣伝していかなきやいけないというのは、もちろん、私の立場でもあるんですけども。

実は昨日の夜に、飯豊町の市町村ミーティングがあったんですけども、飯豊牛の宣伝もいろいろと言われてですね、尾花沢に行くと尾花沢牛の宣伝してくれって。やっぱり、各地区で頑張っている、そのこと自体すごく私は素晴らしいと思っています。その地域、地域で、「うちのところの牛、一番うまい」みたいに思って、とにかくそれを宣伝してくれってということ自体がとても大事なことだと思っております。

昨日ですね、実は朝早く5時半に家を出て、山形市の水産市場で庄内浜の魚の宣伝をやったんですけども、私は庄内に行った時に、漁師さん達から今おっしゃられたことと同じこと言われてきたんです。「知事、いつも『つや姫』ばかり宣伝してるけど、魚の宣伝もしてくれよ。」と言われて、それが実現したわけだったんですね。おっしゃっていただくこと自体は本当に大事なことだと思っておりますし、米沢牛、私個人的にファンでありますので、しっかり宣伝していきたいと思っております。ただ本当に山形牛全体も宣伝しないといけないので、ということも併せてご理解を願いたいと思っております。

おります。

山形セレクションのお話でございますけども。例えばですね、日本酒とかワインとか、その業界でも組織があって、その中で品評会みたいなものができるような、そういうところがあるのはまだいいと思うんですけども、県がありとあらゆる県産品に優劣をつけるというのは結構難しいところがあるんですね。行政がやはり、全部の宣伝をしていかなきゃいけない中で、ある一定の物だけを、これはセレクションという、そこにももちろん責任を持たなければいけないんですけども、じゃあ他のはどうなんだよ、ということになるんです。山形セレクションを認定したものは、全体の中の、例えば農畜産物に限りましても、ほんのわずかだったんですね。**99%**以上は、何の恩恵も受けてないみたいな声も多々あったんですね。それで山形県全体を、やはり底上げしていくのも必要じゃないかっていうのが一点ございますね。それから今おっしゃったように良いものを、しっかりと品質を管理しながら宣伝しながら、けん引役として、しっかりやっていくっていうその大事さもあります。

優秀な米沢牛を育てていらっしゃる方々にしてみればやはり、そういう面もしっかりしてくれということなんだと思うんですけども、ただやはりその品質は、それぞれの業界が一番わかっているわけですから、その方々といろんなコミュニケーションを図りながら、やっていきたいなっているところがございます。総合支庁からそれについて補足をお願いします。

(総合支庁)

産業経済部長でございます。ただ今、山形セレクションの基準徹底のお話がありました。ご存じの通り、セレクションの基準については、出荷主体の基準、それから出荷される精肉の基準がございまして、牛肉については、肉質等級 **A-5** のうち **BMSNo.10** 以上というような一定の基準があります。ただ牛肉の場合は、聞いておるところによれば、出荷団体でもっと厳しい出荷基準を作って、より厳選されたものだけを出して行こうじゃないかという形で取り組んでいると聞いております。山形セレクション自体は、一定の基準であれば該当するとしているところがございます。

もう一点、今後の展望ということでございますが、先ほど知事のほうから説明ありました通り、セレクション制度が発足いたしまして、3年が経過したということで、昨年度、流通関係や有識者の方々などに入っていただき、これまでの課題、成果を踏まえ、今後制度をどうしていくべきかという検討を行いました。その中で、もっと広がりのある制度、枠組みの中での一つのブランド戦略、という位置付けで、このセレクションをやっていけないだろうかという議論がありました。

県が直接認定、認証するよりも、出荷、流通販売、プロモーション、そういったところは民間が主体的に行っているわけでありまして、民間主体の制度運営に転換できないだろうかというふうなご提言がございまして、今年度から、官民共同組織であります「おいしい山形推進機構」で認証認定をしております。

それともう一つ、セレクションを含めた山形県産品の全体的な底上げを図るための総合的なブランド戦略、そういったところも現在、検討しております。この中で、山形セレクションは、ブランド戦略の1ツールとして位置付けられておりますので、それぞれの出荷主体のニーズに応じた形で、ご活用いただければというふうに思います。

(司会)

次に発言のある方、お願いいたします。

【3 米沢女子短期大学の4年制大学化について】

☆公立大学法人山形県立米沢女子短期大学同窓会さわらび会会長、山形県食生活改善推進協議会会長です。

県立米沢女子短期大学の中に「管理栄養士課程」をご承認いただきましたこと、1万3000名の同窓生を代表いたしまして、心より深く感謝申し上げます。念願でございました私達の県立米沢女子短期大学の4年制大学化につきましては、高橋知事、斎藤知事、そして吉村知事と選挙のたびに、いろいろテーマになりまして、そのたびに米沢市の学園都市推進協議会、米沢市から全面的に応援をいただいている組織ですが、その中でも、何度か県庁のほうにおじゃましたりしながら、米沢女子短大の4年制大学化につきまして、私達一丸となって、応援してきました中で、今回やっと40名だけ、男女共学の管理栄養士課程ということで、開設されるということ、大変喜びに思っておりますけれども、よその学科につきましても、市立の短大として米沢も大変財政の厳しい中、米沢の先人は署名、街頭で、婦人会の方々なんか署名運動したりして、米沢女子短期大学というものを立ち上げてきました。これからどういう世の中になるかわかりませんが、何よりも大切なのは人材育成、そして1万3000名の同窓生もいろいろな立場で、派手なパフォーマンスをするような同窓生はいないんですけども、やっぱり実力のある、企画の段階から任せて仕事ができる者が、山形県庁の中にも数名おりますし、それから市内でもナンバースクールの校長とか教頭とか重要な役目を請け負っている者達もおります。人材育成はかけがえのないことだと思いますので、そのことについても知事さん、よりよいご理解をいただきながら、ほかの学科につきましても4年制大学化というものを強く要望するところでございます。

市立の時に、私が米沢女子短大に入った時は、家から通える大学っていうのは、米沢女子短大しかなかったんですね。私が受験する前の年あたりに、山形の短大もなくなりました。女性が4年も大学に入ったりすると嫁に行けなくなるとか、いろいろそういう時代でしたので、世の中変わってきましたけど、やっぱり短大だけではダメで、4年で勉強できる県立の大学が地元にあるっていうのは私達の要望だと思います。私も米沢のような大きな街で育った人間ではございませんし、高校に進学するものもクラスの3分の1、その中から大学、その上まで行っていくのはクラスに1人か2人でした。その中であっちの大学を受けて落ちたとか、こっちの大学落ちたから短大に来たっていうことでなくて、米沢女子短大しかなかったから勉強できたっていうふうな立場ですので、私も後輩に学ぶ施設をちゃんと残して、受け継いでいくっていうのもひとつの仕事かと思ひまして、長年同窓会長をしてる立場でもございますので、その辺のところもご理解いただいて、米沢の地に米沢という地名を残した、4年制県立大学っていうんですか、市長の要望も含めまして、ぜひ4年制大学化に知事さんのお力をお借りしたいというふうに念じております。

それから食生活改善推進協議会のことですが、私達の団体は食育を中心として、山形県内7000

名、離乳食から介護食まで本当にボランティアで32年間、県からは1円の助成金もいただかず、会費でもってボランティアで運営している組織でもございます。その辺のところもご理解いただきまして、いろいろ事務経費につきまして、今、問題も起きておりますし、昨日のミーティングでも協会の方から質問があったと思いますが、今までもいろいろサジェスションいただきまして、ありがとうございます。その件についても感謝申し上げます。二つの団体に対して、知事からもよりよいご理解と推進を強く要望いたします。

(知事)

はい、どうもありがとうございました。

本当に米沢女子短期大学、我々は「米短」と言っておりますけれども、私の姪も米短出身者がおりますので、「米短」と呼ぶことをお許しをいただきたいと思っております。

米短のOGの皆さんも喜んでくださっているということですが、「管理栄養士課程」が、米短に設置されるという方向でございます。本当に熱心に、安部市長さんを始め、地元の皆様方が、熱心に要望されたそのことも受け止め、また「管理栄養士養成課程設置検討委員会」でいろいろ議論いただいて、その報告書を踏まえて、米短をベースに「管理栄養士養成課程」を設置することとしたわけでございます。

さまざまな課題はあるんですけれども、そのことにしっかり対処しながら、魅力と特色のある大学にして参りたいというふうに考えております。

4年制大学化ということで、ずっとそういうお声があったということを聞いております。ただですね、現在、18歳人口が減少しております。そして4年制大学が全国にたくさんあるわけでございますが、その4割近くが定員割れを起しております。その流れは加速していくものと思っております。そういう状況が一つございます。

一方、米短はですね、今まで志願倍率も高く、就職率も堅調ということ、公立短期大学としての高い評価をいただいていると聞いております。卒業生が、しっかり社会の中で根付いて活躍している方が、たくさんおられます。米短の他の4学科につきましては、当面、短大として活性化を図り、魅力と特色ある教育の展開とか地域に開かれた大学づくり、そして自律的、公立的な大学運営というものを目標に、学生ニーズに応じたきめ細かな対応を行って、充実した大学運営を図って参りたいというふうに考えております。当面「管理栄養士課程」というものを、しっかりと魅力のあるものにしていきたいと思っておりますので、地元の皆様のご協力を得ながらしっかり取組みをさせていただきたいと思っておりますので、ご理解をお願いしたいと思います。

(司会)

次の方、お願いします。

【4 文化事業への支援について】

☆米沢市教育文化協会の者です。今日、知事さんにお会いして大変うれしく思っております。よ

ろしく願います。

置賜総合支庁を事務所として、置賜文化フォーラムというのがありますが、これは置賜3市5町に、文化の助成を行ってるとい事業をやっておりますけれども、これは3市5町からも拠出していただいて、半分は県からも出していただいているという、他地区にはない総合支庁の大きな事業だというふう聞いております。ただそれが最近だんだん削減されてきてまして、場合によっては1割5分カットとかということで、最初は**600**万くらいあったのが、今**300**万くらいになったのか、そういう形で削減されている。しかし、小さな文化団体が企画立案した事業に対して、**10**万とか**15**万とかそういう形で支援を3市5町にしているということで、私達文化活動をするものとしては大変ありがたく思っております。米沢でも、実は7万しか予算のなかった置賜地区の絵画展を企画した時に、文化フォーラムからも支援いただきまして、最終的には**190**万の事業をやりました。芸術文化活動をしている人達は、みんなそういう形で、少しでも助成があると、その何倍もの活動をしているんじゃないかなということで、文化事業に対して、県全体としても知事さんの配慮をお願いしたいと、毎年1割ずつカットという形でなくて、そういう温かい一つの配慮を求めたいなというふうに思っています。

さて、米沢のこの伝国の杜の置賜文化ホールには、移動式の能舞台があるということで、おそらくこれは全国でも珍しい施設でないかなと。この文化ホールができてから、やはり米沢を中心としての能、謡曲の事業が多くなりまして、狂言で子ども達を育てていく事業も毎年発表を行っております。それから米沢出身の、もちろん地元の謡曲の団体も活発な活動しておりますけれども、米沢出身で東京で能と謡曲、そういう塾をしている、師匠をしている人が、最近たびたび米沢に帰ってこられて、公演をするというような形で、ここを中心として活発な活動が最近なされています。我々としては、できれば自前で、能楽、謡曲仕舞、それから能の舞いができるような、そういう鼓とか太鼓とか、そういうことも、そういう人達も増やして行って、自前でできるような、これは**10**年**20**年かかると思うんですけれども、そういう形に育って行ってもらえればなあというふうに思っているところであります。

ところが先ほど申し上げましたように、文化事業に対して、毎年少しずつ補助が下がってるといようなことになっていくと、そういう希望もちょっとしぼんでいくわけでありますので、どうか文化ホールを中心とした謡曲、能の活動がますます盛んになりますように、それからそれに合わせて、ここを中心としたその他の芸術文化活動が、推進されますように、県の補助をいただいて自主事業としてやっております事業、その他の事業も、ひとつ温かく見守っていただきたいなというふうに思っているところであります。

(知事)

はい、どうもありがとうございます。

日頃から文化芸術のご活動をなさっていらっしゃるということなので、そのことも併せて敬意を表したいと思います。

それで置賜文化ホールを含めた芸術文化事業ということに、しっかり取り組んでほしいという、そういう、予算を1割カットずっと続けるようなことをしないでほしいという、非常に具体的なご要望なの

かなと思います。

芸術文化事業と、本当にそのことで活動なさっていらっしゃる方々、そのこと自体が、私は県民の皆さんの活力になると思いますし、また先人から受け継がれてきたものを、現代でも楽しみ、そして功績も残していくという、非常にとても大切な役割を担ってくださっているとも思っておりますので、非常に大事にしていきたいと思っております。

そしてまた、芸術文化そのこと自体が、歴史とも非常に関連しているわけでありまして、観光に本当に結びついていくと思っております。広域連携というようなものも含めて、本県には、いろいろところで文化、歴史事業がございますので、そういうものをその手をつなぎながら、観光のほうに持っていけるのではないかとこのように思っておりますし、現代を生きる私達にとって、まだまだ、活用できる、言葉がそぐわないかもしれませんが、私はやはり、そのようにオープンに、意味を広げて県全体が元気になるような方向で持っていったほうがいいんじゃないかなと思っております。厳しい財政状況の中ではありますが、できるだけ、適切に対応していきたいと考えております。予算のお話しができましたけれども、できるだけ検討して参りたいと、今申し上げまして、ご要望を受け止めさせていただきたいと思っております。ありがとうございます。

芸術文化については、米沢市長さんも本当に熱心だというふうに伺っております。安部市長の考えをお聞きしたいなと思っております。

(米沢市長)

米沢市は、基本的に城下町らしい街、そして学園都市、文化都市、そしてさらに国際交流活動の活発な都市でありたいというふうに思っています。そういう流れでありますので、さまざまに工夫をしながら、予算付けに頑張っていきたいというふうに思っておりますので、県のほうにもよろしく願いしたいというふうに思います。

(発言者続けて)

どうもありがとうございました。実は今年の「天地人」も歴史を研究する人達、それから直江兼続を尊敬する人達が集まって、「直江兼続公をんNHK大河ドラマに推進する会」を発足させて、そこにだんだん市や県の、それから新潟、福島と、それぞれの行政の方々も入って、ああいうふうな形が実現したわけでありまして、そういう意味でも文化活動している人のそういった活動を、ひとつ大きく認めていただきたいなど。

それから山形県の農産物っていうのは、私は素晴らしい芸術作品ではないかなと、我々の目から見ると、評価をしていきたいなど。そういう意味で外国に農産物を売り出していく、安いものでなくて、素晴らしい高級品なんだっていう形を、やっぱりぜひ進めていただきたいものだと。どうもありがとうございます。

(司会)

次の方、お願いいたします。

【5 「にっこり知事室」(戸沢村殉難の碑)についての感想】

☆通町から参りました。

山形県はもちろん「農業県」「果樹王国」、また私達の住んでおりますこの米沢市は、先ほども市長さんのほうからもお話しがございました「上杉の城下町」、また「米織りの都」として、全国的に知られてるわけですが、私は要望とかはないんですけども、この間の「にっこり知事室」を皆さんもご覧いただいたと思いますが、戸沢村ですね、最上川がちょうど流れてるわけですが、古口小学校の相沢分校、昭和**45**年4月**24**日、ちょうどあの時は本校で運動会の総合練習があつて、その帰りじゃなかったかと思ひます。8名の生徒さん、渡し船で分校のほうに帰る途中、増水で8名の生徒さんがいなくなり、その時の先生が、**45**年に新採として赴任いたしました小関先生と伊藤先生という、知事さん書かれておりました。そして8名の生徒さんは助かりましたけれども、先生が帰らぬ人となったわけですが、あれから**40**年でございますから、ご健在でございましたら、もうご定年になって、きっとこれからの人生を楽しく歩む時期じゃないかと思ひます。そこで、絶対にこういうことあつてはいけないということで、あのところに殉難の碑がございまして、あれは当時の文部大臣坂田道太先生が、こういう悲惨な事故を2度と繰り返してはいけないということで、自筆で書かれているんだと思ひます。

私も昔は観光の仕事をしておりましたので、ちょうどあそこを通る時、ご案内したりしてご冥福をお祈りいただいたりして、でもだんだんだんだん薄れて参りまして、そこに知事さんが花束を供えて、これを写真で見せていただきまして、「ああ」って思ひました。

先ほどから知事さんおっしゃっておりますように、対話、そしてあつたかい県政っていうお話しでございましたので、どうぞいろんなところに気配りをさせていただいて、これからも素晴らしい山形県政、していただくよう、よろしくお願ひいたします。失礼いたしました。

(知事)

本当にありがとうございます。

「にっこり知事室」で、私、戸沢村の殉難の碑を話題にさせていただいたのですけれども、これは本当に山形県民にとって、私は「宝」だと思っております。**25**歳の二人の先生がですね、生徒を守つて、ご自分達はもう亡くなられたわけですが、そういう教育者が、この山形県にいたということは、本当に県の誇りでございます。生きていらつしゃれば、まだ**60**代ということで、ご家族の方の本当に、悲しみというか、そういうものもいかばかりか、というふうに推察したわけでありませう。それにしても教育に携わる、教育だけではないんですけども、この熱い人のためを思う、社会のためを思うというような、そういう気持ちというのは、私はまだ本県には残つていると思ひますし、山形から発信できるっていうふうにお願ひしております。

首都圏のほうで、高齢者の行方不明とか、いろいろ出ておりますけれども、山形県だけはそのようにはなりたくない、なつてほしくない、人と人との絆を大事にする、あつたかい社会というものをずっとこれからも、再構築していきたいものだというふうにお願ひしているところでございます。米沢ついで

うところは、本当に人と人とのつながりがしっかりしているところだというふうに聞いておりますし、なかなか大変なところもあるようではございますが、若い人方が、もっともっと活躍できるというようなことにも配慮しつつ、良いところはしっかり残すということも含めて、しっかりと米沢らしさというものを顕示していくことも大事だというふうに思っております。

本当に素晴らしい応援のお言葉をいただいたと思っております。ありがとうございます。がんばりますので、またよろしく願いいたします。

(司会)

次の方、お願いします。

【6 子育てしやすい環境の整備について】

【7 どのような子どもに育てほしいか】

☆統計調査の登録調査員の研修、親睦を目的とした集まりであります研睦会の者です。

このたび行われました国勢調査の調査員を務めさせていただいたんですけれども、その中でいろんなご家庭を訪問させていただいたのですが、子育てについて、いろいろ考えさせられる出来事がありました。

例えば、少子化や小さな子ども達の教育などについてなのですが、知的教育も大切ですが、「やさしく思いやりのある辛抱強い子ども」ということも少し考えてみる必要があるのではないかと考えさせられました。

また少子化についても、子育ての環境を整えば、若い人達も、子どもを持つとする人達が増えるのではないかなあ、などとも考えました。

それで山形県において、特に米沢の子育て環境などはどうなっているのか。またこれからどのように子育てや教育について取り組んでいかれるのか、お聞きしたいと思います。またどのような子ども達に育てほしいというふうにお考えか、知事さんのお考え、また母親としてどのようにお考えかお聞かせいただければと思います。よろしくお願いします。

(知事)

はい、どうもありがとうございます。本当に大切なことについてのご質問をいただいたと思っております。子育てしやすい環境を作ることで、若者がもっともっと子育てというものに取り組めるのではないかとこのように思っております。山形県は、三世代同居率が本当に多いですね。核家族も増えてはいるんですけれども、それでも全国の中では、三世代同居世帯の割合が高いほうでございます。しかしながら、今言いましたけれども核家族化が進んでいるという、その状況も一方でございます。家庭環境の変化、それから地域とのつながりが薄れてきているというふうにも言われております。最上の方からもそのような話を聞いたことがございます。それで、家族が少なくなって、核家族化が進むとどうなるかっていうと、子育ての先輩が身近にいないわけですから、非常に不安とか悩みが出てくるわけですね。子どもを育てるといことは、社会全体で一緒に

サポートするんだ、応援するんだという、そういう環境づくりをすることが、大事だになっていうふうに思っているところでございます。

人口減少の流れを止めるということも、本当に大事な視点なんですけれども、そっちのほうも含めて申し上げさせていただければですね、「子ども手当」っていうのを政府のほうでやっていますけれども、それをばら撒きみたいに批判する方もいらっしゃいますけれども、私はそうではないと思っています。ただそれだけですべては解決しない、それだけをやったら、ばら撒きと批判されてもしょうがないんじゃないかなと思います。その現金給付というのと、現物給付というのがあるんですが、やはり保育園とかそういう施設に、子育てをする上での施設に対する整備、支援そういうことも必要だと思います。それから、働き方の見直し。子どもを育てながら働ける、子どもを育てたあとでも、きちんと仕事に復帰できるとかですね、そういうさまざまな働き方の見直しっていうことも必要だと思います。

それから結婚しないっていいですか、しないかできないかそれはわかりませんが、その方々が結婚しやすい環境をつくる。結婚活動、「婚活」と言っておりますけれども、就職活動が「就活」で、結婚活動が「婚活」で。「婚活」もやはり応援していかなきゃいけないんじゃないか、私その4点セットだというふうに、セットが必要で総合的にやっていかなきゃいけないんじゃないか、そしてまた現在は、雇用の問題が非常に厳しいです。日本全体の問題ではあるんですけども。ですから、働かないと収入が無い、婚活もできない、子育ても難しいということになりますので、雇用も含めて、この5点セットで総合的に対策をしていかなきゃいけないんじゃないかというふうに思っております。このことは政府のほうにも提言しております。内閣府に行っても申し上げたし、厚労省のほうにも申し上げて参りました。もうこれは一つの地域とか、自治体だけでやってもどうなのか、もう国全体でやっていかなきゃいけない時代なんじゃないかなというふうに私は思っているところでございます。のちほど米沢市さんにもお聞きしたいと思っておりますけれども、今申し上げたように、「やまがた子育て応援プラン」を策定して、結婚、出産、子育て、若者育成、ライフステージに合わせたその施策というものを、これからもしっかり展開していかなければならないというふうに思っております。

今年の10月末に、子育てタクシーの運行を開始しております。具体的なことを申し上げれば、県が全国に先駆けて支援して子どもや妊婦が安心して乗車できる、そういう子育てタクシーというものも運行も開始しております。皆様のさまざまなお知恵をお借りしながら、本当に県民全体で子育てを応援していくような環境づくり、支援というものに取り組んでいきたいなというふうに思っているところでございます。米沢市さんお願いします。

(米沢市長)

「婚活」につきましては、実は私の場合は結婚相手は自分で見つけてほしいと思っていましたが、世の中どんどん変わって、そんなことを言っていたのではすまない時代だという認識に立っております。それで、さまざまな「婚活」のパーティーやら何やら、そういうものをやってほしいというふうに、指示をしているところです。

また今年の3月に「米沢市次世代育成支援計画」という計画を立てました。計画倒れにならないように、具体的にさまざまやりたいと思っています。例えば、今知事からお話しができなかった市の独

自のものとしては、酒田あたりでやっていますが、「3人乗りの自転車購入補助」とか、さまざまにきめ細やかに、がんばってみたいというふうに思っているところです。

(知事)

はい、ありがとうございます。

どういふ子どもに育てたいかというふうなご質問も受けたのではなかったかなと思います。

そうですね、私は本当に具体的なことを言ってしまうと、家族みんなで大事にかわいがって育てちゃったというのがございまして、やはり友達を大事にするような思いやりのある子どもに育ててくれればいってというふうに思っておりましたし、それは今でも変わっておりません。人に対して、思いやりのある子ども、そして自分のことだけでなく、社会というものをきちんと考えられる、そういう社会性というものもあるように育てほしいなというふうに思っております。非常に簡単な答えで申し訳ございませんが、よろしいでしょうか。

【8 農業委員会での出会いの場の設定状況報告について】

☆「婚活」のことが出ましたので、私、米沢市農業委員会の会長でございます。

今回、農業委員会として初の試みとして、今月の6、7土日を期して、出会いの場、愛☆婚シェルジュ米沢・農業体験ツアー 僕らは君を待っている！！「畑DE会おう！ 2010秋」というようなことで、関東圏の女性2名、仙台の女性2名、地元米沢の女性4名と、受ける男性は米沢8名で、小野川温泉に一泊をしていただきながら、りんごのもぎ取りだの果樹栽培を、農業体験をしていただいて、2日目の7日は松川河畔で、米沢名物の芋煮会を開催したところが大変順調に行って、**8名 8名**ですから、8組ですが、2組くらいはゴールインに近いんじゃないかなと思っておりますので、米沢市のほうにも、財政的な応援もお願いします。知事さんも、ぜひよろしくをお願いします。

(知事)

大変ありがとうございます。今後ともよろしく願いいたします。

(司会)

次の方、お願いします。

【9 南原悪臭問題について】

☆私は、南原地区自然環境保全推進協議会の者です。

現在、南原地区で操業している堆肥製造業者及び養豚業者が原因の悪臭公害問題が、南原地区ばかりでなく、米沢駅周辺を含む東部地区、南部地区、松川地区、山上地区及び中部地区にも広がり、米沢市の大きな問題になっております。

私の住んでいる南原石垣町は、上杉氏が米沢に来た時に、武士が移り住んだところであり、現在も武家屋敷が残っている**400年**の歴史ある住宅地であります。

また町内から **300m**離れた東側に松川。県の母なる川。最上川の源流である松川が流れており、河川のそばには、直江石堤公園が設けられ、またそこには直江兼続が築いた石の堤防が **1.2 km**ほど残っております。とても歴史的に貴重な自然豊かな素晴らしい地域であります。

皆さんがくつろぐところで、秋になると大勢の方が芋煮会等で楽しんでおりますが、最近利用する人が少なくなりました。利用したすべての人達が、「素晴らしい所だけでも、強い臭いがな」と言っております。その素晴らしい地区、そして **400** 年の歴史のある住宅地から、東にわずか **150m**離れた松川との中間に、堆肥製造業者が操業しており、また松川沿いに南**3km**離れた松川の脇に、養豚業者があります。

私達は堆肥製造業者に対して十数年、養豚業者に対して二十数年、悪臭公害問題で苦勞してきました。当協議会は解決すべく、住民と共に山形県公害審査会に調停申請をお願いしたり、また米沢出身の国会議員、県議会議員、市議会議員及び17地区の地区委員長さんを招いて、「自然環境保全推進大会」を開いたりして、運動してきました。また行政も米沢市議会の中に、「悪臭問題特別委員会」を立ち上げたり、米沢市が堆肥製造業者と「悪臭公害防止」を締結したり、養豚業者に対しては2回目の改善勧告を出したりなど、解決に向け、努力していただきました。残念ながら、多少改善されましたが、まだまだであり、南原地区ばかりではなく、他地区の市民からの苦情も多数寄せられております。

私達住民としては、天気の良い日に布団を干したり、洗濯物を気兼ねなく干したり、季節が良くなると戸を開けて食事をしたり、そういう普通の生活が普段通り、生活環境が1日も早くできるよう、許認可権者である吉村県知事に現状を認識していただき、業者等に強力な指導をしていただきたいと思っております。どうかよろしくをお願いします。

(知事)

はい、どうもありがとうございます。

悪臭問題ということでございます。米沢市内でも苦情があつて、大きな問題となっているという、市民の方々が大変だというようなお話を私も聞いております。もうご案内かとは思いますが、県のほうでは、堆肥製造業者に対しまして、廃棄物処理法に基づき、立ち入り検査を実施して原料である廃棄物の適正処理を指導しているところでございます。

また平成 **21** 年3月に米沢市に、悪臭防止法に基づく権限移譲というものを行っております。米沢市では、平成 **21** 年4月に県内で初めて、工業専用地域を規制地域として指定したほか、堆肥製造業者との間で、公害防止協定というものを締結して、これに基づき指導を行っております。堆肥製造業者では、脱臭装置の設置、排気口のかさ上げ、そして脱臭用薬剤の使用などをやって、悪臭防止の対応に努めておりますけれども、まだ市民の皆さん方に納得いただける効果が得られていない現状にあると思われま。

一方、養豚業者につきましては、米沢市が平成 **22** 年3月に行った悪臭防止法による改善勧告というものを受けて、新たな改善計画を作成して、計画に基づいて改善措置を行いました。現在その内容が、改善勧告の内容を満たしているかどうかの検証というものを、米沢市で実施していると

いうふう聞いております。

県としましては、以上のように悪臭問題に対して取り組んできているんですけども、今後とも、米沢市と連携して悪臭の発生問題、抑制や脱臭などの防止対策について、指導を行って参りたいと考えております。総合支庁のほうから詳しく説明して下さい。

(総合支庁)

保健福祉環境部長です。よろしくお願いいたします。

知事からもお話がありましたように、養豚事業者、それから堆肥製造事業者を原因とする悪臭の問題につきましては、周辺地区だけでなく、その時の風向き、気温などの天気具合によって、かなり広い地域に影響が及んでおり、なかなか簡単に解決できる問題でないなと思っております。

これまでの経過につきましては、会長さんのほうから詳しくお話いただきましたので、その辺は省略をさせていただきたいと思っております。

基本的には、県といたしましても、これまで米沢市さんといろいろ協議をしたり、協力をしたりしながら、事業者に対して様々な働きかけをしてきております。しかし、会長さんのお話しにもありましたように、若干は良くなってるけれども、まだまだ容認できるレベルまで下がってきていないという状況にあるということで、認識をしてございます。

「県は許可権者として」というお話でございましたが、県では、当事者の一方である堆肥製造事業者に対しましては、廃棄物処理法に基づいて許可をしているという立場にございます。また、知事のお話しにもありましたように、いわゆる悪臭に対する規制問題については、米沢市さんでやっていただいております。こうした中で、事業者として社会的な責任として、今後とも臭気を低減していく努力をやっていただく必要はあると思っておりますので、県といたしましては、米沢市さんと協力しながら、なお一層、指導に努めて参りたいと考えてございます。

加えて、事業者側と、それから地区の方が、地区としてはこんなことに困っているんだというようなことを、事業者としてはこういうことをやっていきたいけど、どうなんだろうかというようなことを、直接対話していただくことも重要と思っております。県としても、また米沢市さんとしても、そうだと思いますが、その間に入っていると汗をかかさせていただきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いを申し上げます。

(米沢市長)

それでは私からもお答えをしたいと思います。

市も県にご協力いただいて、一生懸命努力はいたしておりますが、実際には県や市が強制的に営業を廃止させるという強制力を持っていないということや、あるいは法律上の臭気指数とかそういう基準をクリアしていると許認可権では、許認可せざるを得ないという、法律上せざるを得ないということがあって、すなわち、法律だけを武器にしているとなかなか難しいものがあって、苦戦しているというのがあります。そこで私は社会的責任、今、総合支庁からも話がありました、社会的責任あるいは人間としての道義的責任、そういうものも武器にしてそちらのほうからも強く迫っていき

というふうに思っています。当然、そのためには県と二人三脚で迫っていく、あるいは市民の皆さん方の圧倒的なご支援を得て、それで迫っていくということが大事だというふうに思っていますので、今後とも皆様方のご理解とご協力を賜りたいというふうに思います。

(発言者続けて)

もう一言。

本当に、吉村知事に本当にお願いしたいんですけども、やはり、これが1番最初に許可をするということが問題ではないかなと思ってます。だから、許可をおろす時に、申し訳ないんですけども、書類だけ見ないで、やっぱり、現場さ行って、どういう場所にこういう仕事をするんだがなって。そこら辺を確認して、許可をおろす。「いや、ここではまずいんじゃない、この近くさこれだけ住宅あったら」そういうふうに指導もできると思うんですね。法律だけでどうのこうのって言う前に。そういうふうにと何とかしていただけないかなと思います。なかなかはつきりいって、我々も十何年も奮闘してきても解決しないもんですから、ここで知事にお願いしたって、なかなか解決しないと思いますけど。そこら辺を十二分にわかっていただければ、大変うれしいです。どうかよろしくお願いします。

(司会)

次の方、お願いします。

【10 東北中央自動車道の追加 I C（主要地方道米沢高畠線交差部）の早期完成について】

私、東北自動車道建設同盟上郷地区協議会の副会長です。本日幸いなことに、吉村知事とお会いできて、意見を述べることができましたので、ご要望を申し上げたいと思います。

知事もご案内の通り、東北中央自動車道と主要地方道米沢高畠線との交差点部、川井地内に市街地とのアクセスを強化するために、ぜひともインターチェンジを設置していただきたい。この設置と、早期完成を強くお願いするものであります。

当該地区は国道 121 号、喜多方米沢線の延長線上にあり、米沢市役所より東方へ約 1.7 km の地点であります。この地点には、もうすでに米高線は4車線分の用地が確保されており、現在は2車線で暫定通行しておりますが、米沢市街地とはもとより、高畠方面からの利便性もよく、中央道に接する最短距離であります。救急時や災害時には十分に機能することとありますので、県の事業として取り上げていただき、実現化を早くできるよう、強くご要望申し上げます。よろしくお願いします。

(知事)

はい、どうもありがとうございます。

ご指摘の追加、インターチェンジにつきましては、現在追加インターチェンジの設置による整備の効果、そして設置の必要性というものについて、調査を実施しながら、米沢市さんとも協議を進めているところでございます。今後連結許可の申請に必要な事項を整理するとともに、米沢市さん

との協議を整えて、年度内には国への連結許可申請というものを行う考えでございますので、地元の皆様もご協力をよろしくお願ひしたいというふうに思っております。

なお国の許可がおり次第ですね、事業に着手することとなりますけれども、中央道本線の供用に合わせ取り組んで参ります。総合支庁からこれについてお願ひします。

(総合支庁)

建設部長です。この追加インターチェンジにつきましては、今、知事が申された通りでございます。お話にありましたように、片側2車線で4車線確保されておりますし、羽黒川橋につきましても格好はもう4車線ができていような状況であります。県の道路予算にもよりますけれども、その区間につきましても、4車線計画を実施できるかどうかを検討していきたいと思っております。

またずっと東に行きますと、今現在、長手トンネルを建設中でございます。もう数年でその区間が供用になりますので、それができますと高畠町からのアクセスが非常に良いということで、この追加インターチェンジは、非常に利用価値があるインターチェンジになるのかなと考えているところでございます。

今後とも地元の皆さん、米沢市さんにはご協力をお願ひしたいと考えております。

(意見者続けて)

大変ありがとうございました。本当にご理解をいただいたものと心強く感じて、帰って地元交渉いたしますので、実現化によろしくお願ひ申し上げます。23年度から、22年度末には、国のほうへご申請をお願ひできると理解してよろしいですか。

(総合支庁)

連結許可申請につきましては、年度内に申請して、来年度初めになるか、3月になるかはわかりませんが、国の許可がおり次第に、米沢市と費用負担協議の協定を結びまして、それを締結したあと、事業に着手して参りたいと思います。

(司会)

次の方、お願ひします。

【11 認可外保育施設への助成について】

☆私は塩井町塩野の無認可、一応認証は17年度にいただいていた。このことでは市長さんをはじめ、その当時の部長さんもここにおいでになっていらっしゃると思いますが、本当にありがとうございました。

私は認証保育所として、今は一応無認可になっているんですけど、山形市はもう認証っていうのは、かなり補助金が出るようですね。それを米沢市にもおろしていただければなと思っております。

無認可に対して、市長さんからも無認可の認可外保育園の支援ということで、このたびから大変大きな補助金が出ました。ここにもいっちゃうと思うんですけど、無認可も基準を満たして、一生懸命がんばっているところです。でも30分の1の補助金でやっていますので、認可保育園の30分の1でなくて、もう少し。子どもは同じ、権利は同じなんでね、基準を満たしてちゃんとしてるんだったら、もう少し引き上げていただけないものかなあと、考えております。どうかその点は、市長さんはじめ、県知事さん、また国からの補助金というのはまったく無いので、知事さんから要望していただきたい。そういうふうに思っております。どうかよろしく願いいたします。

(知事)

はい、ありがとうございます。本当に子どもさんを世話する、それをお手伝いするという組織でございますので、県のほうでは昨年度からですね、本当に現場での対応を積み重ねて認可外保育園への助成というものをしているところでございます。やはり社会全体で応援するということの一環でございまして、現物給付って、私、先ほど申し上げましたけども、その方向はやはり、必要だと思っております。国のほうにも言っていきたいと思っております。

(司会)

次の方、お願いします。

【12 母子福祉資金のPRについて】

【13 教員の適性検査実施について】

☆現在、私は22歳、20歳、13歳の男の子3人を母子家庭で育てております。二男が大学に進学する時に、奨学金をもらわなきゃいけないかなと思ひまして、荻原博子さんの本を読みましたら、シングルマザーには自治体による援助があると分かり、すぐに市役所のほうに行くと、子ども課に連絡しましたら、県の福祉課で、母子福祉資金という修学資金制度があるということで、現在月6万4000円を借りておまして、残りは本人がアルバイトで月10万から14万ぐらい稼いで、生活費はお蔭様で仕送りゼロで、大学生活を送っています。ところがこの制度を知っている人っていうのは少なく、知っている人だけ得をするっていうのは、公平ではないと思います。もっとPRを、県でお願いしたいと思います。

それと、先月10月24日に米沢に心療内科の海原純子先生が講演に来て下さいました。ところが教育委員会の幹部の方、主催だったのですけれども、海原純子先生も、鎌田實先生もご存じありませんでした。社会情勢を知らないで、子ども達を教育できるのでしょうか。今、何が流行っていて、子ども達が何に興味を持っているかという現場を教師として把握している義務があると思います。

9月に鎌田實先生が山形にいらした時に、「教育とは貧富の差がある家の子にチャンスを与える。恵まれた家との差を縮めるものだ。」とおっしゃいました。福沢諭吉先生もしかりだと思います。今の日本は、高学歴にするには、高所得の子、そして勝ち組、負け組を作っていると思います。その子の持っている可能性を引き出すのが教育ではないのでしょうか。先生による影響は大きいものです。

その子の人生も左右すると思います。

県知事も4年に1回、選挙がありますので、教師もせめて5年から**10**年に**1**回、適性検査、そして**PTA**による判定も加味して行われてはどうか。

子育ては、皆さん「大変だ大変だ」とおっしゃいますが、私自身は子どもは世界を広げてくれると思っています。「子は親の鏡」という、ドロシー・ロー・ノルト先生の言葉で、「和気あいあいとした家庭で育てば この世の中は いいところだと 思えるようになる」という言葉を聞いた時に、産官学民、みんなが協力した社会であれば、みんながやっぱり、良い世の中だなあと思えるようになるんじゃないでしょうか。

県知事は「子育てするなら山形県」と、謳っていらっしゃるかもしれませんが、この間、海原純子先生が、山形県を「私が1番好きな県だ」とおっしゃってくださったんです。それで私は、ぜひ吉村県知事に日本で1番住みたい県にしてほしい、いただきたいと思うんですけれども、よろしく願いいたします。

(知事)

はい、本当にありがとうございます。

今、拍手が起きたということは、本当に皆さん方も、そのように思っていることだっというふうに思っております。特に最後ですね、本当に「日本で1番住みたい県に」というようなこと。そういう県にしてほしいということと言われてまして、私も本当にそういう気持ちでがんばっていかねばならないというふうに思ったところでございます。

お話しの中です、母子家庭といいますか、子どもさんを進学させる時のいろいろな制度というものがあるので、それをもっと県のほうでも周知するべきではないかというご指摘、まったくそのように思いますので、**PR**をもっとしていきたいというふうに思っております。

それから教員のお話しが出ました。やはり子どもの気持ちがわかる、子ども達の毎日の実態がわかるというようなこと、とても教員にとって、必要なことであり、大事なことだっというふうに思っております。昔からいい先生って言われる方はそういうところが、やっぱりしっかりしていると思いますし、そういう先生を、やはり増やさなければならぬと言いますか、その教員の資質向上ということになるかと思いますが、そういう側面、本当にしっかり対処して、対策していかなければならないというふうに思っております。そのことにつきまして、教育委員会が所管でございますので、教育事務所のほうからお話しをしてください。

(置賜教育事務所)

置賜教育事務所長です。

教員も社会情勢をしっかり勉強して、子どもにがんばって教育していただきたいというお話だったかと思えます。まったくその通りで、大事なご指摘だなというふうに思っています。そして、そのことに関わって、教員の5年ないし**10**年ごとに、教員の資格、あるいは更新をやっていただきたいというようなことですが、昨年度から、**10**年ごとに教員の免許を更新制度が始まりました。中身につま

しては、社会の状況を踏まえて、そこにおける学校の課題や子ども達の変化を読み取りながら、最新の情報や知識、技術を身に付けるというふうなねらいでございます。たださまざまな経緯がございまして、始まってから2年目になるんですが、抜本的な検討もされているということでもあります。

本県といたしましては、子ども達の気持ちをしっかり捉えて教育していくことは非常に大事に考えております。冒頭でも知事から対話による心の通い合う県政というご発言がありましたが、県の教育委員会としても、コミュニケーションを大事にして心の通い合う教育を推進していくことを重点にしながら、初めて教員になった方、5年目の先生、**10**年目の先生、いった方、また1年に何回か生徒指導に関わる研修会または教育相談に関わる研修会、こういったところで、先生方の資質向上に取り組んでいるところであります。

社会が厳しくなっても、教育は子ども達に夢と希望を与えていかななくてはならないと思います。本當にご指摘いただいたことを、しっかり受け止めながら、私どもも、先生方の資質向上に取り組んでいきたいと思っておりますのでご支援を賜りたいと思っております。ありがとうございました。

(司会)

次の方、お願いします。

【14 ウコギの特性を活かした認知症等の予防薬開発による産業創出について】

☆知事、「つや姫」のトップセールス、ご苦労様です。

一つ、高齢者並びに介護医療に関する形、そして雇用の問題っていう形になるかと思うんですけど、現在、介護なされている方及び介護予備軍と言われてる方、年齢に関係なく若年性の方、さまざまいるかと思うんですけども、一つの提案というか、意見として聞いていただきたいのですが。米沢で「うこぎ」が、地元の産物としてありますが、そういったものの特性を生かして東京大学や、それから漢方で昔から有名な企業や、それから本山であります漢方を栽培している中国、そういったところと連携しながらですね、アルツハイマーや認知症、そういったものの中期症状までに、今現在、東京大学教授も言っておりますが、改善されるというふうなことが出ているそうです。そういったものを連携しましてですね、行政の枠のみならず、そういった方たちと手を取ってですね、お金の面はといいますと、知事がおっしゃっているロシアとか中国とかそれからインド、中近東のお金持ちの方々に参加していただきながら、山形県の中で、そういったものの開発、研究及びそういったものの企業を誘致してですね、医療や福祉、そういったものに役立っていただけるような企業をですね、どんどんこれから取り入れていただければ、先駆けた形で、ひとつ、雇用の問題、それから今、その老人ホームのほうに行かなければいけない方たち、それからお年寄りがお年寄りを介護する老々問題というふうなものも、非常に解決になっていくんじゃないかなと思ひまして、そういったところにも目を向けていただいて、ひとつ従来型の考え方とは、また別にして、そういったところで新たな企業を創造していただく。

医薬だけでなく、そういったものに対する健康に携わる食品というふうなものに、チャレンジしていただければ、こういう分野も、介護の面、高齢化の問題に対しても、ひとつの解決の糸口にな

っていくんじゃないかなということで、切に要望したいなと思ひまして、1人の個人として意見を申し上げました。よろしくお願ひいたします。

(知事)

はい、どうも貴重なご意見ありがとうございます。

本県は高齢化率、全国で5位でございますし、今お話しに出たような介護、アルツハイマーも含めた高齢対策も絡めながらやはり、新たな企業を誘致していきたいとか、あるいはするように支援ということなのかと今お聞きしました。

「うこぎ」というのは本当に素晴らしい効用があると思っておりますし、本県にとっては、さまざまな薬草という資源もたくさんありますね。そういうところ、やはり健康と絡ませながらですね、起業という方向に行きましたならば、雇用も出ますし、本当にいいことづくめになるのではないかと思います。今現在あるものを活かして、雇用を創出するというもの、本当に大事なことだと思っておりますので、素晴らしいご提案をいただいたと思っております。ありがとうございます。

「うこぎ」のことについて、安部市長何かお考えありますか？

(米沢市長)

「うこぎ」の効用については、山大工学部と米沢女子短大の先生の共同研究によって、さまざまなことが明らかにされていて、ポリフェノールというのが、5000種類あるそうで、そのうちの一つ、非常に有効なポリフェノールが「クロロゲン酸」というものだそうですが、それは制ガン効果が、ガンが発生しないように抑える効果があるというふうに言われています。ただ薬事法とかがあるので、「うこぎ茶」とか「うこぎ焼酎」で、ガンに勝つとかっていうのは書いてないわけですが、そういうのがあると言われております。ですから、さまざまに活用をこれからしていく。そしてそういうことで、起業していく、会社を興していく、産業を興していくということは非常になんというか、それが介護と結びついてのご発言というのは、非常に新たな切り口で、皆様も新鮮にお聞きになったというふうに思います。非常に良い話でしたので、今の話、十分に吸収させていただいて、いろいろ考えさせていただきたいというふうに思います。

(司会)

次の方、お願ひします。

【15 市民憲章全国大会への県内市町村の参加について】

☆米沢市の市民憲章の会長でございます。

知事さんには、昨年度、市民憲章運動推進第44回全国大会米沢大会には10月2日、3日、4日の3日間のうちの、3日には米沢の交流会にご出席賜りまして、誠にありがとうございます。大会につきまして、市長さんには非常に大変お世話になって、みごと素晴らしい44回大会成功いただいたわけでございますが、今年度は岡山県の総社で45回の大会があったわけでございまして、米沢

から6名ほど参加いたしました。

山形県としまして、非常に知事さんをお願いしたいことですが、先ほど芸術文化の話で、県共々に手を取り合って、素晴らしい山形県にしたいというふうな話でございまして、市民憲章も、明るく住みよい豊かな街、山形県全体、全国的に手を携えてるわけですが、山形県としましては、鶴岡、天童、米沢しか全国加入になっていないわけですが、そのため、東北6県としましても、この **22** 日には花巻で、東北6県の代表者が集まって、全国に加入するように運動しようというふうなことがございますが、山形県に対しましても、知事さんからぜひ、参加するように、全国に加入するようにお声掛けいただければありがたいと大変にありがたいと思っております。よろしくお願いいたします。

(知事)

はい。明るく住みよい山形県にするために、がんばっていただいたことありがとうございます。市民憲章大会ということで、今のご要望と言いますか、参加している市町村以外の市町村にも呼びかけて、ということだと思しますので、呼びかけてみたいと思います。本当にご苦労さまでございます。